

令和4年度 第1回学校運営協議会（記録）

1 日時 令和4年5月17日（火）9:00~12:00

2 参加者 学校運営委員会

- ・門池地区連合自治会長 様 ・さんしんハートフル株式会社人材開発部主査 様
- ・日教弘静岡支部参事 様 ・沼津市手をつなぐ育成会顧問 様
- ・愛鷹分校 PTA 会長 様 ・校長、教頭、高等部主事、教務主任

3 校長挨拶

- ・愛鷹分校は、とても良い雰囲気スタートできている。4月以降、静岡県としては教員の不幸事が続いており、一人ひとり意識を高めていく必要性を感じている。今年度から高等学校の新学習指導要領が全面実施となり主体的・対話的で深い学びにつながる授業を行っていく。GIGAスクール構想や社会とつながりをもった学習など継続して取り組む。新型コロナ感染については、十分な感染防止対策を取り城北高との共生共育を進めていく。再来年度小山高校内に新分校が設置、来年度創立10周年など学校運営にかかることが続く。本校の良さを校内外にアピールしていきたいと思っている。

学校運営協議会は1つの独立した組織であり、取組を地域に還元して分校をさらに充実させていきたい。

4 学校経営目標等説明

（副校長より）

- ・学校経営計画について、学校経営計画書を見ながら本年度の重点目標を説明した。今年度のキーワードとして「つながり」の強化を図っていききたい。「安全」では、命を守るという視点を踏まえた道徳の授業を行っていく。「専門」では、継続して「職業」で授業改善を行い、研修していく。ICTを活用した授業づくり、図書の研究指定など生徒のよりよい生活に向けて取り組む。コロナ禍での「共生・共育」を、感染対策を十分に行いながら進めていく。

（部主事より）

- ・昨年度末18名の卒業生。自分の特性を生かした進路選択を保護者も意識するようになってきている。校内では、ワーク地域として地域の方に御理解いただき様々な事業所で活動している。城北高校との共生共育としては、3年ぶりの松濤祭への参加を計画している。4月に城北高1年生へ初めて愛鷹分校を紹介する場を設定した。これから交流へつながるようにしていきたい。

（委員より）

- ・進路について
卒業後の支援はどのようにしているのか。離職した人のその後はどのような状況になっているのか。

（部主事より）

- ・卒業後、1年目は3回、2年目は2回、3年目に1回の会社訪問（電話での確認）を障害者就業・生活支援センターと協力しながら行っている。離職後は再就職を望む人が多いが、離職の原因を踏まえながら障害者就業・生活支援センターと連携しながら進めている。

（委員より）

- ・自分が社会で役立っている実感、働くことの意味をもてるようになるとうい。

（委員より）

- ・地域と連動してより良い学校づくりを考えた学校運営協議会を作っていくのではないかと。市内小中のコミュニティスクールも参考にしながら、ステップアップにつなげたい。

（校長より）

- ・地域の方に賛同を得て、より良い学校運営協議会にしていきたい。

（委員より）

- ・自立について 助け合ってこそ自立を考えていくことが大切。困ったときに助けてもらいた

いことを訴えられる手段を身に付けていけると生徒の気分も楽になるのではないか。

(委員より)

- 共生共育について
城北高校と、どのような交流をしているのか。

(部主事より)

- 城北高で行われる様々な講座や交通安全教室などを行っているが、生徒同士の交流にはなっていない。ポッチャなどの競技を一緒にやる時間を持ちお互いが交流できるようにしたい。

(委員より)

- 学校の考えと地域の考え方を合わせていけるようにしていきたい。評価は、教員がどうだったではなく生徒がどうなったか分かるようなものがよい。

(副校長より)

- 自分の命を守れる生徒になるために、取り組めることがあれば教えてほしい。

(校長より)

- 同じことを繰り返しても「これは大事なことから繰り返す」と伝えていくことで、生徒に理解してもらえることもある。ただ機械的に行うのではなく、教員の思いが必要。

(委員より)

- 様々な災害などが起こっている昨今、平穏の日常が大切であるが、子供にはわかりにくい。それでもいざというときにできるように日常に落とし込んで生き抜くことができるようにしていく必要がある。
- 知的障害の子供は、わかるまでに時間がかかる。身につくまでは、しつこく繰り返し言い続けることが大切。
- 具体的に、困ったときや何かがあったとき分校の生徒だったらどうすればよいのかを身に付けられるとよい。
- 平時にできる備えや災害をイメージできる学習を繰り返し行い、今すべきことを考えていく。自分の命を自分で守り、助け合い支えあいの精神を道徳の学習で教えていくことも大事。学習したことをまとめて、度あるごとに振り返ることもよい。

(委員より)

- 夏休みに、自分なりに調べたいこと(研究したいこと)に取り組んではどうか。他の人と一緒に体を動かす(スポーツ)は、チームワークにもつながる。長期休暇だからこそできること、自分から取り組むことで自信をもつ機会にもなる。

(部主事より)

- 例年、プリント学習や家事手伝いを行うことが主になっているが、取り入れられることを考えていきたい。

(委員より)

- コロナ禍であるためまだ制限があるが、人が変わっていく組織の中でなにもやらない状態は、今までのことが引き継がれていかない。これからにつなげていくためには、実施できなくても計画を立てることを続けていかなければならない。

5 授業参観

- 3年生の情報、1・2年の作業(布工房、緑工房)を参観。

参観後の感想

- ICTの授業は、今までの積み重ねが感じられ、チームワークもよく感心した。作業では、地域とつながっていることがわかった。
- 生徒たちが、楽しくやっていた。工房で経験したことが日常生活につながっていくとよい。
- 作ったものがお客さんに喜んでもらえることが働くことにつながる。